

## 吉松研究室 第14回修士議事録

---

日時 : 2013年9月19日 木曜日 15:50~18:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 金子  
      : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

#### 1. M2 修士論文設計発表

---

#### 1. M2 修士論文設計発表

- ・「透かし」ガラス等での素材ではなく、不透明なものに隙間や開口を開けて部分的にその先にある物を隠す。
- ・透かしの良さ：対象物を見えなくすることで見る人が見えない部分を頭の中で想像し、補う。

レファレンス：HOUSE A/西沢立衛、アトリエビスクドール/前田圭介 UID、マコーミック・トリビュン・キャンパスセンター/OMA、馬頭広重美術館/隈研吾

→・問題は何か？

- ・「透く」ことで軽さが生まれる。「量」を減らすこと。
- ・前回の House N/藤本壮介、間の門/五十嵐淳は金子の興味とは違う気がする。
- ・透ける物で透けない物を作るのは少し面白い。まちに開いているけどプライバシーを保てるような建築。図書館や美術館といった開放したいけどできないもの。
- ・矛盾する物を矛盾しないようにするしくみを考える。
- ・アトリエビスクドール/前田圭介 UID、HOUSE A/西沢立衛は不透明な物を透明に見せようとしている。
- ・「透明性」という言葉の方がいい。

### 総評

---

- ・自分の考えを発表する。コピペではダメ。手を動かす事。

### 次回ゼミ

---

- ・ 2013年9月26日
- ・ ビスクドールの模型を作成 (1/50)  
自分の考えが見ただけで分かるようなレファレンス模型を作る。  
(中間までに自分の作品を1~2個つくる)

## 吉松研究室 第13回修士議事録

---

日時 : 2013年7月22日 月曜日 17:30~19:00  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
      : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

#### 1. M2 修士論文設計発表

---

#### 1. M2 修士論文設計発表

- ・「襲ね」は単一でも複数でも認識をする事が出来る。
  - ・不透明なものを集合させる事で透明と認識出来る「襲ね」を用いて透ける空間を作る。
- レファレンス：共愛学園前橋国際大学／乾久美子、House N／藤本壮介、溝の郭／TNA、間の門／五十嵐淳、ロンシャン礼拝堂／ル・コルビュジェ、サーペントインギャラリー／ピーターズントー、カルティエ財団／ジャン・ヌーベル
- ・色は全部不透明。
- ・「透明を用いて透ける建築を作る」という要約になり、何も面白くない。
  - ・多重認識ができるように作っている建築を多重認識ができるという説明をするのは意味がないが、レファレンスに自分の考えを投影することは可能。

### 総評

---

- ・いろいろな事（建築、髪型、服装など）に対して自分の基準を考える。自分はどのような物を気持ちがいい、快適だと感じるのか。また、それはなぜかを考える。
- ・サーベイは自分の基準に気がつくために行く。

### 次回ゼミ

---

- ・2013年7月25日にやり直し  
根拠となる資料（模型、本、論文など）が必要。

## 吉松研究室 第12回修士議事録

---

日時 : 2013年7月15日 月曜日 17:30~19:00  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

1. トン族集落デザインリサーチまとめ

---

#### 1. トン族集落デザインリサーチまとめ

- ・展示物: パノラマ写真4枚(銀潭、堂安、増沖×2)、概要パネル1枚、ファサードのムービー
- 観光写真ではなく、デザインリサーチをする。
- ・行った事がない人に村の雰囲気伝わるように。
- ・パノラマ写真は縦の長さを統一して展示。

### 総評

---

- ・何をどうやって伝えるのかを考える。

### 次回ゼミ

---

- ・ 2013年7月22日 第3研究室

## 吉松研究室 第11回修士議事録

---

日時 : 2013年7月8日 月曜日 18:30~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
      : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

1. トン族集落デザインリサーチまとめ
  2. 木島平コンペのダイアグラムチェック
- 

#### 1. トン族集落デザインリサーチまとめ

- ・展示物予定：パノラマ写真（A1 パネル2枚程度の大きさ）
  - ・展示内容：銀潭パノラマ、アイレベルパノラマ、ストリートファサード、回転パノラマ、鼓楼の見上げ写真、地図、動画
  - ・行った感じを伝える。
    - ・アイレベルパノラマ：表ばかりだと生活感が伝わらない。
    - ・ストリートファサード：近距離からの撮影のため、生活感が伝わりやすい。
    - ・回転パノラマ：2点透視で分かりづらい。
- 

#### 2. 木島平コンペのダイアグラムチェック

- ・ゾーニングダイアグラム/建替えダイアグラム
  - ・見やすさ、色使いを考え直す。
    - ・各ゾーンを雁木ロードが串刺しにしているイメージ。
    - ・動線ダイアグラムは表動線、裏動線、車動線が必要。
  - ・木島平広域地図
  - 飯山のまちと、温泉・文化施設、スキー場のある新しいまちの3つの重心を、現在役場のある元々あったまちがつなぐことが分かるようにする。
- 

### 総評

- ・何をどうやって伝えるのかを考える。
- 

### 次回ゼミ

- ・ 2013年7月15日 第3研究室
-

# 吉松研究室 第10回修士議事録

---

日時 : 2013年7月1日 月曜日 19:00~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
M1 板部 山田(記)

---

## 院ゼミ内容

1. トン族集落デザインリサーチまとめ
  2. 修士テーマ発表
  3. 木島平コンペ
- 

### 1. トン族集落デザインリサーチまとめ

---

- ・集落の地図を作成
- ・パノラマ写真、鼓楼内部の写真作成
- 地図は集落としての関係性を示す。屋根伏を書く。  
絵の書き方を考え、情報量を増やす。  
集落の人たちの姿やライフスタイルを、行ったことのない人たちに伝える。

### 2. 修士テーマ発表

---

- ・「透ける」はビジュアルなものに使い、「透明」は見えないものにも使う。
- ・「透ける」はものがあることが前提。
- 「透ける」と「透明」は違うのか。  
透明視（錯視）のメカニズムは何か。位相とは？  
透明視のレファレンス建築を探す。

### 3. 木島平コンペ

---

- ・機能ごとに必要な面積のボリュームを作りスタディ。
- 山や風景を見ることができるのは大事。  
音楽用ホールは音響的なものより、  
○○案と名前を付ける。レファレンスがあると良い。

## 総評

---

- ・人にどのようにしたら伝えやすいのかを考える。

## 次回ゼミ

---

- ・ 2013年7月8日 第3研究室

日時 : 2013年6月24日 月曜日 18:30~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

院ゼミ内容

1. 学会エスキス

---

1. 学会エスキス

---

■金子・板部

- ・窪地のような傾斜地に木造住宅が密集して建ち、再建困難な家が多くある。
- ・家の老朽化、防災面に弱いという問題を改善する為には大規模開発が必要。
- ・このままでは木密の公私が曖昧な住環境から生まれた、人々の密な関係がなくなってしまう。
- ・加藤さん(12期)の修士設計を参考にする。
  - ・再建困難棟数などきちんと数字を示し、ディフェンスを固める。
  - ・スプロール化によって人々が住み始めたのではなく、戦後の動乱期(法規(建築基準法)ができる前)にこの地に住みついた。
  - ・まちのどこに問題があるのか現状を図示する。
  - ・調査: 地形を示す(住宅の密度/地形+よう壁/行き止まり部分)
  - ・分析: 道路を示す(車両侵入困難/棟数密度/階段/細街路)
  - ・狭いエリアに再建困難住宅が何%あるのか?
  - ・傾斜地の地形が高齢者にはつらい。
  - ・提案: レベル差がほとんどないように等高線に沿って横移動させる避難経路を確保  
大規模開発を阻止できればいい。  
建替える方法を示す。

総評

---

- ・ストーリーを直し、どのデータや絵が必要か決めて作業する。
- ・必ず完成させ、提出すること。

次回ゼミ

---

- ・2013年7月1日 第3研究室

## 吉松研究室 第8回修士議事録

---

日時 : 2013年6月17日 月曜日 19:00~20:00  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          M1 板部 山田(記)

---

### 院ゼミ内容

#### 1. 修士テーマ発表

---

#### 1. 修士テーマ発表

---

- ・「透明」よりも「透ける」ほうがやりたいことに近い。
  - ・「透明」とは、ものを通して向こう側が見える。
  - ・「透明視」とは、色合いや明暗などの条件によって実際は透明ではないが透明に見えること。
  - ・ 実際に透明な物体を使わなくても透明現象を知覚的に生じる現象。
- 透明性に関するすべての語を調べる。  
透明と透けるは違うのか。  
虚の不透明性は錯視である。  
心理的要因を調べる。(色彩心理学)  
色はとても難しいので、まずはモノクロで勉強する。

#### 総評

---

- ・ 透けるだけなら、修士でやる意味はない。

#### 次回ゼミ

---

- ・ 2012年6月24日 第3研究室

## 吉松研究室 第7回修士議事録

---

日時 : 2013年6月10日 月曜日 19:00~20:00  
場所 : 第3研究室  
出席 : M1 板部(記) 山田  
欠席 : M2 金子

---

### 院ゼミ内容

1. 象の鼻報告書のチェック
  2. 学会ワークショップの報告
- 

#### 1. 象の鼻報告書のチェック

---

- ・ 順番を並び替えて、スキャンデータの文字を読み取れるようにした。
- 報告書はまず“報告”をまとめる。  
いつ、どこで、どんなことをしたか。どのくらい費用がかかったか。どのような結果になったか。

#### 2. 学会ワークショップ

---

- ・ 日にちが合わずにほとんど行く事が出来ていない。
- ・ 東大、早稲田、理科大、芝浦、日大、横国 etc…が参加している。
- 無理に学会に行かなくてもいいが、時間を上手く使えば時間は作れるはず。

### 総評

---

- ・ 悩んでいる時間が長過ぎるのでなるべく短くし、結論を早く出せるようにする。
- ・ 時間を決めてやることをこなすこと。決めるまではご飯を食べないや、寝ないなど。
- 学会について
  - ・ 地図を壁にはっていつでも見られる状態にして作業する事。
  - ・ 西戸部チームは地形を理解するためにスケッチアップ以外のこともやる。

### 次回ゼミ

---

- ・ 2012年6月17日 第3研究室

### ワード

---

- ・ 船頭(せんどう) : 1. 和船の船長。ふなおさ。 / 2. 櫓(ろ)などを操って小舟を操る人。 / 3. 水軍の長。水手(すいしゅ)の長。
- 船頭多くして船山に上る(せんどうおおくしてふねやまにのぼる) : 指図する人間が多いために統一がとれず、見当違いの方向に物事が進んでしまうたとえ。
- ・ コンセンサス : 意見の一致。合意。



## 吉松研究室 第6回修士議事録

---

日時 : 2013年6月3日 月曜日 18:30~20:00  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          : M1 板部 山田(記)  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

#### 1. 修士設計テーマ発表

---

#### 1. 修士テーマ発表

- ・ 透かすとは、隙間をあけること。透かす空間とは、見えなくても空気が通ること意識的にはつながっていること。(西沢立衛『透かす』)
- ・ 光が通ることが透かす。
- ・ 光を当てて見えるようにしたものも透明性の一種(コーリン・ロウ)
- 透明と透明性は何が違うのか。
- 透明性とは透明の度合いや程度のこと。

#### 総評

---

- ・ 修士は建築の透明性についてやる。資料をしっかりと調べて理解する。
  - ・ 透明な状態とはどういうもので、どんな時に使われる言葉か。日本的なるものについても調べる。
  - ・ まずは、ありとあらゆる辞書を引く。
  - ・ 自分が体験したものを模型で作ったり、建築を見に行ったりする。
- 学会について
- ・ 古地図や歴史を調べる。
  - ・ この敷地にしかないものを探す。

#### 次回ゼミ

---

- ・ 2013年6月10日 第3研究室

## 吉松研究室 第5回修士議事録

---

日時 : 2013年5月27日 月曜日 18:30~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
      : M1 板部 山田(記)  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

#### 1. 修士設計テーマ発表

---

#### 1. 修士テーマ発表

---

- ・ 重層性とは他の要素が重なり合っていること。  
千住美術館  
絵画 (キュビズム)  
アサンブラージュ (コラージュの立体版)  
ミュラー邸 (アドルフ・ロース)  
ダニエル・ビュレン (視覚の効果)
- ・ イメージで捉えられるようになった都市において、見えなくなった魅力を可視化する建築の手法として重層性を使う。  
→パワーポイントはいらないので、参考資料 (本、論文など) を持ってくる。  
→先輩と同じものに興味を持つのは良いが、そこから違うものを見つける。

### 総評

---

- ・ 梗概を読んでも分からないので、先輩にメールして聞く。
- ・ 根拠がないと受け取ってもらえないので、理屈がほしい。
- ・ M1 は M2 と時間を取って修士の話をする。

### 次回ゼミ

---

- ・ 2013年6月3日 第3研究室

## 吉松研究室 第4回修士議事録

---

日時 : 2013年5月20日 月曜日 19:00~20:00  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

#### 1. 学会エスキス

---

#### 1. 学会エスキス

---

- ・敷地：山谷地区 最寄り駅：南千住駅
- ・高度経済成長期にドヤ街として存在し、現在は日雇い労働者だった人々の高齢化が進むまち。
- ・駅前にはラテラスや高層マンションが建ち並び、思っていたドヤ街のイメージとは違っていた。
- ・南千住駅の周辺の町の年齢別人口比率を比べると、高層マンションの建ち並ぶ町が年少人口率が高く、高齢者人口率が低い。一方、山谷地区の町が高齢化人口率が高い。
- ・
- 人が行かない場所には理由がある。山谷地区は敷地にするのは危なすぎるので他の敷地を探した方が良い。
- 山谷で行うのであれば、現在のようにしている経緯や歴史をきちんと調べること。

### 総評

---

- ・案を出すときは色々な路線の案を複数出す。一つずつ持って来ていたら間に合わない。
- ・学会エスキスは院ゼミの内容ではなくスタジオの内容なので、きちんと修士を進めること。

### 次回ゼミ

---

- ・ 2012年5月27日 第3研究室

## 吉松研究室 第3回修士議事録

---

日時 : 2013年5月13日 月曜日 18:30~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          : M1 板部 山田(記)  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

1. 修士設計テーマ発表
  2. 象の鼻報告書
- 

#### 1. トン族集落のデザインリサーチ

---

- ・ パノラマ写真を作成中。
- ・ 鼓楼の写真をどのようにつなげるか考え中。
- 一枚の写真にする必要はない。David Hockney のようなつなげ方もある。  
どうやったら空間のイメージを伝えられるのかを考える。  
何でもフォトショップでやるのは間違い。プリントアウトして張り合わせて考える。

#### 2. 象の鼻報告書

---

- PDF がピンぼけしている。  
同じようなものばかりでだらだらしている。  
会計報告ははじめの方に載せる。

### 総評

---

- 学会ワークショップについて
  - ・ M1 のどちらか一人が行く。
- 只見の議事録について
  - ・ 誰が何を言ったのかを明確に記すことが大事。

### 次回ゼミ

---

- ・ 2012年5月20日 第3研究室

## 吉松研究室 第2回修士議事録

---

日時 : 2013年4月29日 月曜日 18:30~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
          : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

- 1.象の鼻報告書のチェック
  - 2.学会エスキス
- 

#### 1.象の鼻報告書のチェック

---

- ・見積書や請求書はワープロ書ではだめ。書き換えられない画像データを使用する。
- ・進行用紙を作り直す。
- ・どういう写真があるか書いておく。

#### 2.学会エスキス

---

- 金子/板部
  - ・敷地：横浜市西区西戸部町
  - ・木密傾斜地
- ・敷地を横浜にするのはあまりお勧めしない。あまり当たった案が過去にない。
- ・他の木密の傾斜地とどう違うのか言えないといけない。

#### 総評

---

- ・フォトショップなどの勉強をする。
- トン族集落デザインリサーチまとめについて
  - ・鼓楼の見上げ写真はデイヴィッド・ホックニーを参考にする。
  - ・行ってきてきた空間が行っていない人にも伝わるような展示を考える。
- 只見町についての勉強内容
  - ・部屋や物の名前
  - ・表現の違い

#### 次回ゼミ

---

- ・ 2012年5月13日 第3研究室

## 吉松研究室 第1回修士議事録

---

日時 : 2013年4月8日 月曜日 18:30~20:30  
場所 : 第3研究室  
出席 : M2 金子  
      : M1 板部(記) 山田  
欠席 : なし

---

### 院ゼミ内容

#### 1. 修士設計テーマ発表

---

#### 1. 修士テーマ発表

- ・ レファレンス：多視点同時空間把握モデルを用いた建築設計手法／坂田さん（08卒）、離散連続体を用いた建築設計手法／宇谷さん（08卒）、アンフラマン的な建築-空間の引きを用いた渋谷現在美術館-／作田さん（10卒）
- 「虚の不透明性」を言う前に、まず「虚の透明性」とは何か理解する。
- イメージをイメージで説明しない。共有出来る情報（数字などの具体的なもの）を使って説明する。

#### 総評

---

- ・ 修士設計は卒業設計とどう違うのか説明する。
- ・ 卒業設計で出来なかったことを踏まえて進める。
- ・ 自分の考えの必要性を言える力（論理性）をつける。
- インターンについて（毎週金曜日に事務所で作業を行う）
  - ・ 只見町についての勉強。（民家や民具など）
  - ・ 打ち合わせ等の議事録をとる。
  - ・ ワークショップの準備／補助。

#### 次回ゼミ

---

- ・ 2012年4月15日 第3研究室